

緊急事態宣言下における 別居家族とのコミュニケーション機会の変化③

— オンラインコミュニケーションは健康状態理解に役立つのか —

主任研究員 北村 安樹子

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう緊急事態宣言の解除から、1か月余りが経過した。本稿では当研究所が5月中旬に行った「第2回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」*¹から、4月中旬以降の全国的な緊急事態宣言下の生活における、別居家族とのコミュニケーション機会の変化と、家族の健康に対する回答者の意識の関連性について考察する。

<対面接触の変化とオンラインコミュニケーションの増加>

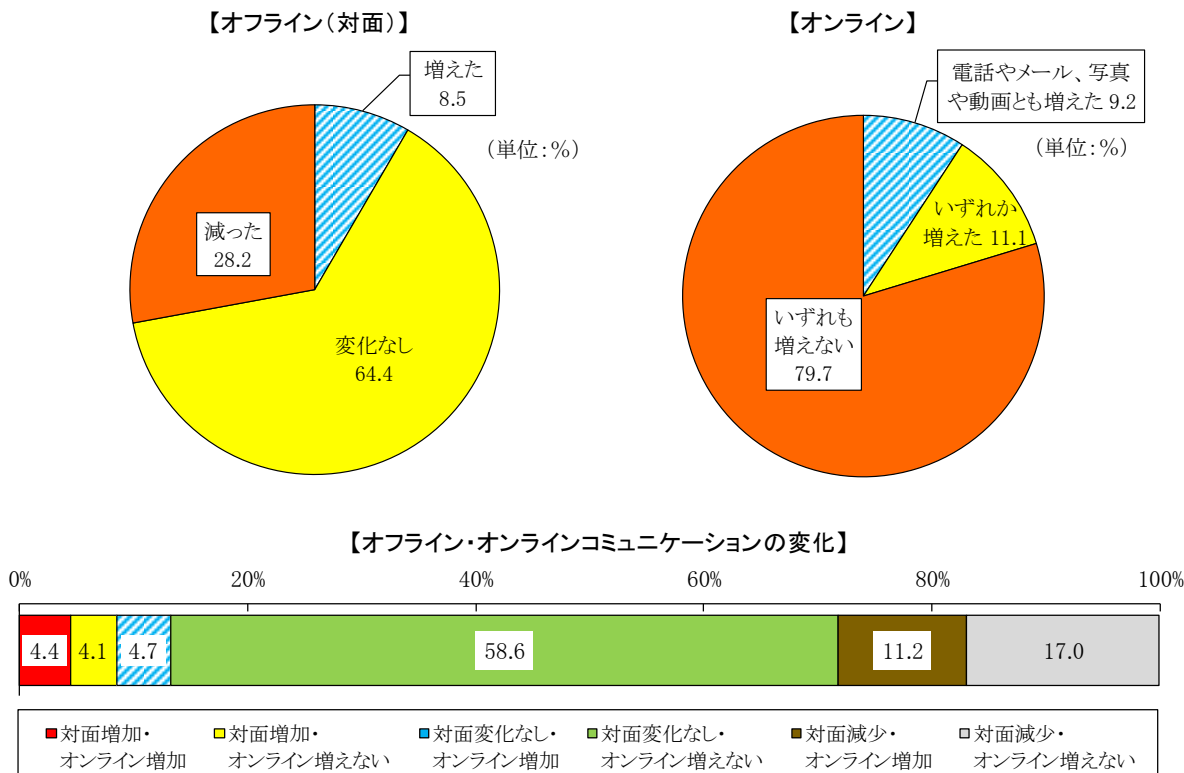
別稿*²では4月中旬以降の緊急事態宣言下の生活で、別居家族との対面接触やオンラインコミュニケーションの変化の状況とともに、両者の関連性について分析した。その結果、外出や対面接触の自粛が広がった4月以降の緊急事態宣言下の生活では、別居家族と「直接会って、一緒に過ごす時間」に変化がなかったと答えた人が回答者全体の6割弱を占めた一方で、対面接触が減ったと答えた人（「減った」「やや減った」の合計）、増えたと答えた人（「増えた」「やや増えた」の合計）がそれぞれ3割弱と1割弱を占めた（図表省略）。また、別居する家族との対面接触に変化がなかった人では、その多くがオンラインコミュニケーションにも変化が見られなかったのに対し、それらが減ったと答えた人や増えたと答えた人ではいずれも、オンラインコミュニケーションが増えた人が多くみられた。これらの変化は、対面接触時のコミュニケーションをオンラインコミュニケーションで補うための行動だった可能性もある。

<対面接触の変化と家族の健康状態に対する意識>

対面接触とオンラインコミュニケーションの双方が増えた人は回答者全体の4.4%、対面接触が減り、オンラインコミュニケーションが増えた人は11.2%と限定的であった（図表1）。しかしながら、新型コロナウイルスの感染再拡大への備えを考えていくにあたっては、これらの変化が家族の健康状態への理解とどう関連するのかを考察することに一定の意義があると思われる。

以下では、これらのコミュニケーションの変化の有無と、別居家族の健康意識との関連についてみる。

図表1 別居家族とのコミュニケーションの変化



注1：設問文は『緊急事態宣言』の対象地域が全国に拡大された4月中旬頃に比べて、あなたの生活には次のような変化がありましたか。もともとそれをおこなっていない方は「変化なし」を選んでください。オフライン（対面）は「直接会って、一緒に過ごす時間」、オンラインは「電話やメールでコミュニケーションすること（音声や文字のみ）」「写真や動画を用いてコミュニケーションすること」を指す。選択肢には「増えた」「やや増えた」「変化なし」「やや減った」「減った」がある。

注2：オンラインについての回答は、電話やメール、写真や動画の双方について「増えた」「やや増えた」とした人を『電話やメール、写真や動画とも増えた』、いずれかについて「増えた」「やや増えた」とした人を『いずれか増えた』、それ以外の人を『いずれも増えない』とした。『オンライン増加』は『電話やメール、写真や動画とも増えた』『いずれか増えた』の合計である。

資料：第一生命経済研究所「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」。調査対象者は全国の20～60代の男女1,000名。調査方法はインターネット調査（2020年5月実施）。

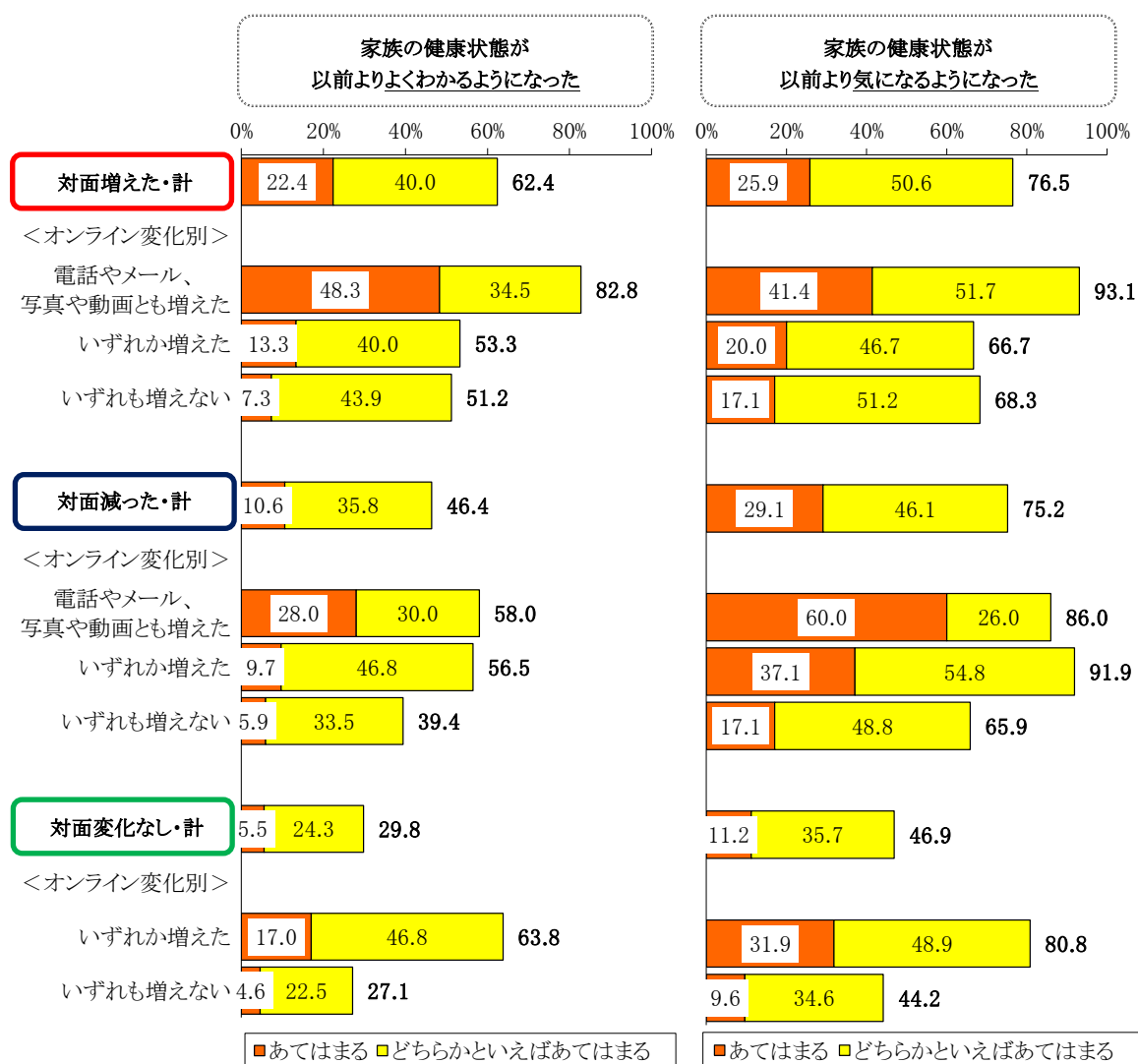
＜オンラインコミュニケーションは、家族の健康状態理解に役立つ＞

図表2は、家族の健康状態について『以前よりよくわかるようになった』『以前より気になるようになった』と答えた人の割合を、対面接触とオンラインコミュニケーション機会の変化の状況別に比較したものである。上段は対面接触が増えた人、中段は減った人、下段は変化がなかった人の回答結果を示しており、それぞれオンラインコミュニケーションの変化の状況別に、『以前よりよくわかるようになった』『以前より気になるようになった』とした人の割合を示している。

まず、左側の家族の健康状態が『以前よりよくわかるようになった』とした人は、対面接触とともに、「電話やメール」「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーションが増えた人において最も高く8割を超える。この水準は、対面接触が増えて、

オンラインコミュニケーションがいずれも増えなかった人を30ポイント近くも上回っている。また、「電話やメール」「写真や動画」のいずれかしか増えていない人と比べても大幅に高く、対面接触とこれらのオンラインコミュニケーションを併用したことの関連性が強いと考えられる。

図表2 家族の健康に対する意識
(対面接触・オンラインコミュニケーション機会の変化別)



注：資料は図表1に同じ。対面変化なしの＜オンライン変化別＞では、サンプル数の制約から「電話やメール、写真や動画とも増えた」を「いずれか増えた」に統合している。選択肢にはこのほか「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」がある。

これに対して、中段の対面接触が減り、オンラインコミュニケーションが増えた人では、家族の健康状態が『以前よりよくわかるようになった』とした人が約6割弱を占める。この割合は、先にみた対面接触とともに「電話やメール」「写真や動画」を用

いたオンラインコミュニケーションが増えた人の水準は下回るが、対面接触が減り、オンラインコミュニケーションが増えなかった人に比べ15ポイント以上高い。ただし、オンラインコミュニケーションで「電話やメール」「写真や動画」を併用した人では狭義の「あてはまる」を選択した人の割合がこれらのいずれかを利用した人を上回っている。「写真や動画」と「電話やメール」の併用は、いずれかだけの利用が増えることに比べて、家族の健康状態がわかるようになることに関連していると考えられる。

<オンラインコミュニケーションは、家族の健康状態への不安を強める面も>

一方、右側の家族の健康状態が『以前より気になるようになった』とした人は、対面接触とともに、「電話やメール」「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーションが増えた人において9割を超える。因果関係は慎重にとらえる必要があるが、家族の健康状態が『以前より気になるようになった』ために、多様なコミュニケーション機会を増やして『よくわかるようになった』か、多様なコミュニケーション機会が増えたことによって、健康状態が『よくわかるようになった』一方、かえって『気になるようになった』可能性などが考えられる。ただし、前者の場合、『気になるようになった』人が9割を超える一方で、『よくわかるようになった』人は8割強にとどまっている。

他方、中段の対面接触が減った人においても、「電話やメール」「写真や動画」を用いたオンラインコミュニケーションが増えた人では家族の健康状態が『気になるようになった』とした人が8割近くを占め、健康状態が『よくわかるようになった』とした人を30ポイント前後も上回った。上段の対面接触が増えた人では両者の差が10ポイント程度であるのに比べこの差は大きい。つまり、対面接触が減った人の場合、家族の健康状態が『よくわかるようになった』とした人と、以前より『気になるようになった』人の割合の差が大きいということになる。このような差は、下段の対面接触に変化がない人においてもみられ、オンラインコミュニケーションのみが増えた人では、増えなかった人に比べ家族の健康状態が以前より『よくわかるようになった』人、『気になるようになった』人の割合がともに高い一方、ここでも『よくわかるようになった』人の割合が『気になるようになった』人の割合を10ポイント以上も下回った。対面接触が減ったり、変化がない状況でオンラインコミュニケーションが増えることは、家族の健康状態の理解に役立つ面がある一方、コミュニケーションを通じて交わされる情報の内容や発信者、その頻度等によってはふだんと異なる様子を感じるなどして、家族の健康状態が気になる気持ちを強めたり、不安につながる場合もあると思われる。

<ウイズコロナ時代に向けた、家族間のコミュニケーションの行方>

今回の緊急事態宣言下の生活では、対面接触の減少など、家族間のコミュニケーション機会の変化を経験した人もみられた。このような人は多数派ではなかったものの、

別居家族の健康状態を気がかりに感じている人にとっては、直接会う機会をもったかどうかや、オンラインコミュニケーションを利用したかどうか大きな意味をもったことを調査結果は示していた。オンラインコミュニケーションをめぐるっては、その使い方はもちろんのこと、使用する機器や方法などの面に関し、性別や年代による違いが大きい。また、家族の健康状態への関心や不安についても、性別や年代、家族との関係性等によってその意味は大きく異なるだろう。

しかしながら、新型コロナウイルスをめぐるっては、緊急事態宣言の解除以降も依然感染拡大の予防や多様な事態への備えが求められる状況が続いている。このようななか、外出・移動や対面接触に自粛が求められる状況が再び起こりうることを想定すれば、心身の健康が気がかりな家族がいる人や自身の健康に不安を感じる人等にとっては特に、オンラインコミュニケーションを行うための環境とともに、それらをうまく活用する能力を身につけておくことが、家族とのコミュニケーション機会にとどまらず、多様な選択肢を広げ、安心感や生活の質を高めることにつながると考えられる。

(ライフデザイン研究部 きたむら あきこ)

【注釈】

- *1 第2回調査の概要については、当研究所発行の以下のリリースを参照されたい。
「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（つながり編）」
http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_05.pdf
- *2 北村安樹子「緊急事態宣言下における別居家族とのコミュニケーション機会の変化①
— 女性で顕著なオンラインコミュニケーションの増加 —」
<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/wt2006i.pdf>
北村安樹子「緊急事態宣言下における別居家族とのコミュニケーション機会の変化②
— 別居家族とのオフライン・オンラインコミュニケーションは? —」
<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/wt2006j.pdf>

*弊社ホームページの「新型コロナウイルス意識調査特集ページ」にてこれまでに実施した調査データや関連レポートを公開しています。

http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=v_year